

3-29

庶発第392号 昭和31年7月4日

内閣総理大臣 鳩山一郎 殿

日本学術会議会長 茅 誠 司

皆既日食の観測計画について(要望)

1958年(昭和33年)10月12日南太平洋において皆既日食が観測されます。

この皆既日食の観測の実施は、科学の進歩に多大の貢献をするものであるので、関係各機関は観測を実施する希望ならびに計画をもち、本会議日食研究連絡委員会が中心となつて総合的にその計画を検討中であります。

国際天文学連合から送付された資料その他によれば、この皆既日食を観測するには、トケラウ(Tokelau)諸島およびスワロフ(Suvorov)諸島がもつとも適地であると考えられます。

現在のところ、約20名の観測隊を派遣し、約30日間現地に滞在させたい希望がありますが、具体的計画をたてるためには現地政府の許可を得ることが必要であり、また、観測船の回航の予定計画がたてられることが望ましいこととあります。

ついては、政府においてこのことについて適当な措置を講ぜられるよう本会議第112回運営審議会の議により、要望いたします。

3-30

昭和31年10月27日

日本学術会議第22回総会

わが国の政治のあり方についての日本学術会議の見解に対し、国民の支持を要望する声明(声明)

日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという確信に立つて、科学者の総意の下に、わが国の平和的復興、人類社会の福祉に貢献し、世界の学界と提携して学術の進歩に寄与することを使命として、創立以来わが国科学の振興のためにつくして来たが、特に第3期においては、わが国科学研究の長期的な見通しを樹立するために努力した。その結果にかんがみると、特にわが国の政治が、その時々的情勢にとらわれることなく、科学的根拠に立つた長期的な見通しの上に行われることの必要性を痛感せざるを得ない。われわれは、ここにその観点からさしあたり重要な諸問題に関し政府に申し入れを行つてきたが、ひろく国民がわれわれの見解を支持されんことを要望する。

3-31

庶発第666号 昭和31年11月5日

内閣総理大臣 鳩山一郎 殿

日本学術会議会長 茅 誠 司

原子力に関する科学技術の基礎研究について(要望)

標記のことについて、本会議第22回総会の議により、ここに下記のとおり要望します。

記

わが国の原子力開発が、日本学術会議の提唱した三原則に沿い、原子力基本法をより所とし、原子力委員会を中心として進展しはじめたことはよろこばしい。